



3年目を迎えた土曜講座

—新しい学びの場として—

広島なぎさ中学・高等学校
高等学校教頭 瀧口 啓倫

はじめに

本校で土曜講座なるものがお目見えして3年目を迎えた。土曜講座とは、広島なぎさ中学校・高等学校において、開校日ではない土曜日を利用して、普段の授業では味わうことのできない興味深い講座をいくつか用意し、自由に選択させることによって、学びの楽しさを体験させようというものである。この土曜講座は一昨年度より開始されたのであるが、それ以来これまでいくつかの講座が開かれ、それなりの教育効果をあげてきたものと思える。たまたま私が土曜講座を立ち上げた初年度の担当でもあり、現在まで私自身が関わった土曜講座の一端を紹介しつつ、この3年目を迎えた土曜講座について振り返ってみたい。

開講された講座の数々

最初、土曜講座を立ち上げた際には、色々なアイデアが浮かんできたが、とりあえずクラブ活動の制約がない先生方を中心に自由な発想で講座を開いてもらうよう働きかけた。その結果、初年度には20を超える講座が提案された。講座の中には、私が開講した「広島近郊の歴史博物館へ行こう!」「楽しい電子工作」をはじめ「映画研究」「民俗学を学ぼう」「ヒロシマ講座 被爆聞き取り活動」「HIP HOP DANCE」「フレンチポップスで始めるフランス語」「発明ってなんだろう?」などの興味深い講座や、広島工業大学の先生方にも協力をさせていただき「関数をハダカにしよう!」「環境づくりを支える電子デバイス」「照明の明るさと色の見え方」などの専門的

な講座も用意された。その結果、あまりに講座の数が多かったためか受講希望者が分散し、受講希望者が少人数のため残念ながら開講できなかった講座もいくつか見られたほどであった。土曜講座も最初は試行錯誤の連続であったが、徐々にノウハウも整えられ、現在ではスムーズな運用がなされている。そこで私が担当した講座からその様子を紹介したいと思う。

「楽しい電子工作」の開講へ

私は、社会科の教員ではあるが、中学生の頃から電気工作に興味を持っており色々和工作を楽しんできた。身近な電化製品も真空管からトランジスタ、ICへと大きく変化してきたのであるが、まだまだ素人でも楽しむことは十分にできる。昔は電化製品が壊れたらドライバーで裏蓋を開いて、修理できないかと色々といじってみたものではあるが、最近の電子機器はとても手に負えるものではない。そのためか、最近の中高校生にとって電子機器はブラックボックス化してしまい、ちょっとした断線による不具合でもお手上げである。かといって、電子



工作を行うのにオームの法則がどのようなというような理論からはじめて、瞬間的にモチベーションは下がってしまう。そんな理屈は抜きにして、今の中高生たちに普段は持つこともない半田ごてを待たせ、彼らに何かしらの工作の楽しさを知らせ、そして自分の作ったものが思い通りに動く感動を与えたい…との気持ちからこの講座を開講することにした。

楽しい講座にするために

講座には女子を含む数名が参加した。問題なのは何を作らせるかである。講座の募集案内では部品代約500円とした手前、安価で短時間で製作でき、自分の作ったものを持ち帰って楽しんでもらえるものにしなければならない。そこで思いついたのが発光ダイオードを使った工作である。発光ダイオードは最近、省エネの観点から脚光を浴びている。話題性もあり美しく光り輝き、何れも安価である。そこで初年度はトランジスタを2個使い、1つの発光ダイオードを点滅させる回路を製作させることにした。2年目は少しバージョンアップして2つの

発光ダイオードを交互に点滅させる回路を製作した。最初は半田ごてを持つ手も怪しかった生徒たちだったが、次第にコツをつかみ、ほとんどの生徒がうまく作り終えた。生徒の様子を見ると反応は良く、中には発光ダイオードを複数個接続してみたり、点滅の間隔を変えてみたりと、自主的な



創意工夫も見られた。3年目となる今年度は継続受講の生徒も多いことなどから、さらにグレードアップして、電子オルゴールの製作を計画している。

毎回の講座が終了すると、その記録を編集して1枚の用紙にまとめ、参加生徒や学級担任に配付することになっている。生徒たちの生き生きとした姿や学んだ内容をぜひ、保護者の方々や、担任の先生たちに知っていただきたいの思いからである。もちろん参加した生徒たちの振り返りの意味も込めている。

土曜講座とバラの花

前述のとおり土曜講座開始以降、校



長、教頭まで含めた多くの教員がバラエティに富んだ講座を用意してきた。白岩前校長の「民俗学を楽しもう」、角島校長の「フレンチポップスで始めるフランス語」、桑原教頭の「ガーデニングを楽しもう」などの講座は、普段あまり授業を受ける機会がない先生の講座ということもあったのだろうか、結構な人気であった。ことに昨年度から始まった桑原教頭の「ガーデニングを楽しもう」講座は、生徒にガーデニングの楽しさを知ってもらいたいとの思いで開講されたと同っているが、昨年度は数名の受講生徒と汗を流し、本校の空中庭園に季節の美しい花々を咲かせていただいた。また、今年度の講座内容は、桑原教頭が昨年本校の体育館横のフェンス沿いに植樹されたバラの世話をするというものである。今年の5月には、まだ生育途中ではあったが、色鮮やかで美しいバラの花々が咲き乱れ、私たちの目を楽しませていただいた。近い将来こうした講座を通じて、さらにバラの木々が生育し、あの有名な工大高校に並ぶほどのバラの花が本校にも咲き誇るようになることだろう。今から楽しみでもある。

土曜講座のもたらすもの

この土曜講座は、受講する生徒はもちろん、講座を受け持つ私たち教員にとってもとても楽しいものになっている。その理由は明快である。生徒たちにこれを教えたい。こんなことを体験させてやりたいと講座の準備を進める。その結果、受講した生徒たちは例外なくそれなりの満足感を持った顔をしてくれる。それは、まさに学びを得た喜びの笑顔である。元来、学びというものは楽しいもののはずである。ここに本校の教育の原点があると言ってもよいだろう。こうした講座を担当することで、我々教員が忘れていている何かを思い出させてくれるメリットもある。まさに教師としての醍醐味を味わうことのできるひとときでもある。

土曜講座をとりまく課題

土曜講座は、本校の教職員をはじめ、多くの生徒の支持もあって年々充実したものになってきつつある。しかし、クラブ活動へ参加している生徒の多くは、参加したくてもできないという事情がある。また、受講したい複数の講座が同一日に開講されていれば、どちらかを選択しなくてはならない。

来年度から教育課程の変更に伴い、本校では、土曜日の休業日が半減する。土曜講座を行える日が少なくなるとはなるのであるが、せっかくここまで育ってきた本校独自の取り組みである。また、これからの広島なぎさ中学校・高等学校の伝統にもなるよう、なんとか継続し、生徒たちにとって新しい学びの場として、これからも土曜講座が提供できることを願っている。